

第 15 回 湖西市子ども・子育て会議 会議録

- 1 と き 令和 2 年 1 月 22 日（水）午後 2 時から 午後 3 時 15 分まで
- 2 ところ 湖西市健康福祉センター3 階 研修室
- 3 出席者 委員：柴田会長、鈴木副会長
飯田眞委員、神谷委員、倉田委員、近藤委員、佐藤委員、
白井委員、高橋委員、豊田委員、西山委員、彦坂委員
（五十音順）
（欠席：飯田正委員、菅沼委員）
教育委員会幼児教育課 課長 小野田 剛士
係長 外山 典靖
事務局：健康福祉部子育て支援課 課長 尾崎 誠
課長代理 豊田 雄一
主幹 石川 明司
係長 吉原 智香
主査 古畑 孝祐

4 開 会

（事務局）

令和元年度第 3 回湖西市子ども・子育て会議を開会します。
会議の開催にあたり、子育て支援課長の尾崎から挨拶申し上げます。

（子育て支援課長）

本日は、お忙しい中、子ども・子育て会議にご出席いただきありがとうございます。旧年中は、第 2 期子ども子育て支援計画策定についてご意見をいただきありがとうございました。本年もよろしくお願いします。

さて、本日は、第 2 期子ども子育て支援計画案に対する答申を会長から市長にこの場でこの後お渡しいただく運びとなっておりますので、最終協議よろしくお願い申し上げます。

ここで少しだけ新年のスタートにおける子育て支援課の事業での出来事をご紹介します。私がある就園前の子どもたちの様子を教室へ伺いに部屋に入ると 2 歳半くらいの男の子が駆け寄ってきて「おめでとうございます。今年もよろしくお願いします」まわりのお母さんたちも保育士も保健師も絶賛、思わず私も「おめでとうございます」と返すと他の子どもたちも駆け寄り「おめでとうございます」と連

鎖反応が起きました。

これは、まさにその子どもの家庭の姿であり、それが地域の姿となりその場の雰囲気も明るく大変微笑ましい光景でありました。まさに、やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめて育てる手法が自然に行われていました。

これまで本計画の基本理念を皆様にご検討いただき子どもたちの笑顔あふれ、生まれ育った郷土を愛し、将来、笑顔あふれる子育てのできる大人へ育ってほしい「一人ひとりの笑顔あふれる KOSAI」が実践されていたことをご紹介させていただきまして、挨拶に代えさせていただきます。

それでは、よろしくお願いします。

(事務局)

それでは、本日の会議は、湖西市子ども・子育て会議運営要領第4条に基づき公開で行います。

なお、傍聴される方が5名いますのでご報告します。傍聴される方は受付で確認いただいた会議運営要領に基づく注意事項を守って傍聴していただきますよう、ご協力をお願いします。

それでは、会長よりご挨拶いただき、ここからの議事進行をお願いしたいと思います。会長をお願いします。

(柴田会長)

皆さん、こんにちは。小泉環境大臣が産休・育休の話が出ていて、少し男性の育児休業の雰囲気が変わればいいなと思っていますが、パフォーマンスで終わってしまっただけは残念なので、実質的な男性が職場において育休の取りやすい状況が整えばと思っています。今日もよろしくお願いします。

それでは最初に、本日の会議の成立について報告をさせていただきます。

全委員14名のうち12名の参加があり、過半数の出席を得ていますので、本会議条例第5条第2項により本会議が成立していることを報告させていただきます。

それでは、議事に移ります。最初に議題1「第2期湖西市子ども・子育て支援事業計画案について」議題とします。先月行ったパブリックコメントの結果も含めて事務局からご説明をお願いします。

(子育て支援課)

令和元年11月25日から12月24日までの30日間、パブリックコメントを行いました。湖西市公式ウェブサイトへの掲載と、公共施設5か所で閲覧を行い、意見を募集しました。ウェブサイトの閲覧数は350ビューで、1名から4項目についてご意見をいただき、その内容は資料1-2のとおりです。

まず1点目、資料1-1、第2期計画案の30ページをご覧ください。アンケート調査

結果では、放課後児童クラブに今後希望することとして、「利用できる学年を延長して欲しい 27.3%」となっています。続いて 51 ページをご覧ください。上の表になりますが、最近の全学年の供給量は 100%となっていますが、整合性はあるのかというご意見です。

放課後児童クラブを 6 年生まで利用できるようになったのは、平成 27 年からになります。5 年前のアンケート調査では 48.7%となっていたので、利用年齢拡大について、ある程度の周知は進んでいるものと思われます。

また、高学年になりますと、部活動や習い事で出席する日数が減ったり、夏休み以降退所する児童が増えたりといった傾向などがあります。そういった状況の中、利用希望が多いクラブにおきましては、低学年の受入れを確保するため、送迎車両・送迎人員を確保した上で高学年には他のクラブを紹介しているという事例もあります。しかしながら、高学年が利用できない状況にはないものと考えておりますので、現在のところ待機児童は発生しておらず、供給量は 100%となっています。

(幼児教育課)

2 点目の教育・保育の見込みで「なぎさ保育園の廃園、内山保育園・新居保育園の統廃合は、②確保の内容に反映されていますか」というご意見です。

なぎさ保育園は、令和 3 年 4 月からの新規受け入れを停止し、徐々に園児数が減っていくこととなりますが、廃園時期は決まっておりません。

また、運営法人からは、現時点では定員をどのように減らしていくかは未定と聞いていますので、廃園については計画に反映されておりません。計画の中間見直しのときには反映できる見込みです。

内山保育園・新居保育園は、令和 2 年 4 月からの新規受け入れを停止しています。また、令和 2 年度以降の在園児数は把握できていますので、閉園については計画に反映されています。

3 点目、病児保育についてのご意見です。

パブリックコメントをいただいた際は、「市内での実施は行いません」と記載しておりましたが、「計画の設定は行っておりません」に変更します。

病児保育につきましては、アンケート調査によると「利用したいと思わない」及び「無回答」が、就学前児童では全体の 60.8%、小学生では全体の 87.2%を占めています。

また、湖西病院を含めて、現時点では市内保育施設での提供体制の確保が見込めないことから「市内での実施は行いません」という表現としましたが、今後、病児保育の実施を検討している法人からの相談があった際は、補助等の内容を含めて事業実施に向けた対応をしていきますので、「計画の設定は行っておりません」という表現に変更します。

(子育て支援課)

4 点目、行動計画全般について「これでは計画になっていないのではないか。PDCAが回っているとは思えない。」とのご意見がございました。支援事業計画において定める必須項目となる事業の内容につきましては、計画案の第 4 章として 45 ページから 59 ページまでに記載しており、該当年度までに確保の内容に掲げております数値目標まで、事業を推進することを定めています。

これに対し、ご意見にあります行動計画につきましては、計画における任意の項目になり、計画案の第 5 章として 63 ページから 87 ページまでに記載しており、今後 5 年間の事業の方向性を掲げ、事業を推進するよう定めているものと考えています。

一方で、事業によっては目標設定や評価の難しいものもありますので、例年子ども・子育て会議において進捗状況のご確認やご意見をいただきながら、必要に応じ見直しを行い、事業を推進していきたいと考えています。

いただきましたご意見やそれに対する市の考え方などは、この会議の議事録等を湖西市の公式ウェブサイトに掲載する際、併せて公表する予定です。

(柴田会長)

パブリックコメントに対する市の方針も含めて計画案の質疑をお願いします。

事務局へ事前に質疑を提出された委員もこの場で改めてご質問をお願いします。

(神谷委員)

パブリックコメントで出た病児保育の事業についてです。

事業計画で市内の実施は行わないが、回答として変更点で計画は見込んでいないという事ですが、あまりニュアンスが変わっていないなと市民としては思います。7 割が必要ないと思っているかもしれないが、3 割の方が思っているということは 3 割の方の意見をどう反映させてもらえるのかが重要だと思います。この会議の意見が反映されるということなので、回答に対して母親が納得いくような回答をしていただけたらなと思います。昔は倉田委員のところ病児保育やっていましたよね。

(倉田委員)

やっていました。

(神谷委員)

必要なお母さんはいる。今、インフルエンザだと 1 週間休まないといけないので、母親としては、例えば兄弟が 3 人いると、ずれて病気になったりすると本当に働けなくなってしまう。休みづらいと思うので、その辺上手く回答のための回答ではなくて、しっかりと湖西市として向き合っていただきたいなと思います。

(幼児教育課)

病児保育ですが、現時点では今後 5 年に向けて数値的には設定していないとしてい

ます。ただ要望としてはあるので、実際に保育園の場合だと、利用したい人が4割いると、平日の250日をほぼ使う目的での40%ですが、病児保育については今回の希望にある通り病気にかかったら使いたいという条件付きでの利用になるので、常に設置するには慎重な考えになっています。実際に開設しても利用実績が見込めなくて最近では横浜の大きなところでも毎年1億円の赤字があって、なかなか運営は厳しいと報道が出ていて、病児保育を辞めるというところもあります。この事業についてはかなり慎重に考えているので、今現在は見込みづらいです。法人で実施を行いたいというところがあれば、相談に乗りながら補助体制にも整備したいと思っています。

(神谷委員)

今の回答を得ると、もしかしたら対応する機会を作って貰えるかもしれないという見込みがあるのかと思いますが、単的な言葉だと見込みもないのかなと思ってしまうので。

(幼児教育課)

あくまで整備量としては数値化できない部分です。細かく表現するところまで至っていないですが、この場での回答としては、実施に向けてやりたい法人があれば支援したいという思いはあります。法律については慎重な考えで、PDCAの面でいけば検討を踏まえた中で実施しないといけない。費用対効果がどこまで持つかもあるし、慎重な考えでいるのが現状です。

(神谷委員)

ありがとうございます。

(柴田会長)

表現として難しいかもしれないが、「今後のニーズによって検討はする」とかニュアンス的に残してもらおうと、保護者はありがたいかもしれないです。

(鈴木副会長)

ここに湖西病院での病児・病後児保育を実現して欲しいという意見がありますが、施設の方では保育園やこども園がするとなると、看護師の確保が必要になってきます。部屋も必要になってきて、現時点では両親ともに休まなければならない状況があって、本当に何とかしてあげたいというのが施設を運営する方でも感じています。そうした時にただでさえ保育教諭の確保だけでも難しい中で看護師の確保という部分では病院がやってくれると看護師もいるし、医師との連携も実際に利用する人も医療機関に行って診断書を貰わなくてはいけない。そして施設に行かなくてはいけないと考えたと、病院の方がいいのかなという思いもあるので、その辺の意見も今後に反映していただけるといいという意見に賛成です。

(柴田会長)

この事業が一番最初に始まった頃には、保育園等で新しく部屋を作って人を雇ってやるスタイルのものと、小児科の開業医のところに部屋を作って保育士さんも入れて、診察の傍らニーズがあればその都度対応してやっているところがありました。その意味で本当は病院がやっていただけると一番やりやすいのかもしれませんが、少し大きな課題ですが検討していただけるとありがたいです。

他にはいかがでしょうか。一番下の行動計画のところは少し意見された方が説明された数値計画を見ていらっしやらなかったのも、そことの対比で数値計画が入っていないで文言ばかり並んでいてと思ったということですね。

行政的には充実と書いてあるところと、整備と書いてあるところ、検討と書いてあるところでニュアンスが違うと思います。なかなか表現しづらいところかと思いますが、他にはいかがですか。パブリックコメントやこの計画ができてきた中で前回意見いただいたところがこのようになって出てきて、形になったものを見てきましたがいかがでしょうか。

それでは議題1「湖西市子ども・子育て支援事業計画案について」の審議を終了します。今後計画案がどのように進行していくのか事務局から説明をお願いします。

(子育て支援課)

本日ご審議いただいた計画案を、来週、静岡県知事宛に協議書として提出します。計画の必須項目の数値目標については、昨年来、県から何度となく照会があり、すでに報告済で、数値の確認をいただいております。2月中旬には、県から回答書が届く予定となっています。その後、必要な手続きを取り、第2期計画の公表を3月下旬に予定しています。

計画の冊子や概要版の作成を進めていますので、委員の皆さんにもでき次第お送りしますので、ご確認をお願いします。

(柴田会長)

今説明のあったように県内の市町の数字が上がって県全体の数値という事になるようです。県との協議が今後あるという事ですが、必須の項目、国が定めていて数値を確定しなくてはいけないものは確認をさせていただいているようですので、今後この数値については、事務局と県とで協議していただくということで一任したいと思うのでよろしくお願いします。

市においては、第2期の計画の推進にあたり、この会議での意見を十分に尊重していただき、湖西市の全ての子どもの最善の利益の実現と質の高い教育・保育を提供していただくとともに、本計画に沿った事業実現に向けて尽力していただくよう会議を代表しまして要望します。

次に議題2「第1期湖西市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について」です。

計画への掲載が法律で義務付けられている必須記載項目から進捗状況を確認します。教育保育の提供体制についてご説明をお願いします。

(幼児教育課)

資料 2-1 必須項目調査表(教育・保育)をご覧ください。

1 号認定は平成 27 年度から継続して提供量が需要量を上回っていますが、2・3 号認定は逆に需要量が提供量を上回っています。

幼児教育・保育の無償化以前から、幼稚園の需要は下がり続け、逆に保育園の需要は上がるという状態にあるため、市としては公立幼稚園のこども園化を進め、2・3 号認定の提供量の増加を図ってまいりました。

令和 2 年 4 月の新居幼稚園のこども園化と真愛三ツ谷こども園の開園により、2・3 号認定の定数、つまり提供量が 209 人増加しますので、令和 2 年 4 月時点での 2・3 号認定の不足は、ほぼなくなる見込みです。

(柴田会長)

それでは教育保育の進捗状況について質疑がありましたらご発言ください。

無償化以降の申込み状況等具体的な窓口等の対応で変化が感じられるところがあったら教えてください。

(幼児教育課)

無償化の影響ですが、本年度 10 月から開始されましたが、実際の申込数は本年度の 4 月入園から既に出ていました。昨年度から無償化について報道等されていて、3 歳児から無料なので、本年度 4 月から昨年度と比較して 1 歳児、2 歳児の申込数が 4 割近く増えている状況です。来年度の 4 月の入園申込みも比較してみると本年度の 4 月の入園申込みが 200 だったのに対して、来年度の 4 月の入園申込みは 240 になりました。2 割くらいアップしています。これまではまだ働くのはどうしようかと考えていた方も無償化に合わせて働こうとする方も増えており、無償化の影響は大きいと考えています。

そういったものも踏まえて、来期の整備量等については幼稚園・保育園等見込みを立てて計画したつもりです。まだ始まって半年、今後どのような影響が出てくるか怖いところですが、入りたいという要望に応える整備量は、常に見ながら確保していきたいと思います。

(柴田会長)

有難うございました。先日 NHK の番組で無償化の影響をやっていましたが、延長保育の需要が一気に増えて、延長を担当する先生が忙しくてたまらないと言っていました。その辺はいかがでしょうか。

(幼児教育課)

湖西市は、従来全園延長保育をやっているのですが、他市の場合だと 18 時 30 分までの利用ですが湖西市は 19 時までの利用と各園で頑張ってやっていただいています。

以前と比べるとなると延長保育については、数値的には変わりはないです。

(柴田会長)

では、次に地域子育て支援事業の提供体制について説明をお願いします。

(子育て支援課)

「放課後児童健全育成事業」についてです。

この事業は、就労などのため、昼間に保護者がいない家庭の小学生を預かり、放課後の居場所を提供するものです。さまざまな学年の友達と一緒に、遊びを通じて充実した放課後を過ごせるよう、現在市内の 9 か所で実施しており、そのうち 4 クラブでは地域の小学校内で実施しております。

本年度は、需要に対し提供ができていますことから、自己評価を A としています。今後の展望ですが、課題でありました新居小学校区について、令和 2 年度から新居小学校の空き教室でも実施するよう準備が進んでおり、既に利用者の募集も開始しています。

(幼児教育課)

延長保育事業は、保育園・こども園での 18 時から 19 時までの保育ですが、今後も保護者の要望に合わせて継続して実施します。

在園児対象型の一時預かり事業は、公立幼稚園 4 園の在園児を対象に実施しているもので、利用が増加しているため今後も継続して実施します。

在園児対象型を除く一時預かり事業は、保育園・こども園で実施しているもので、今後も継続して実施します。

病児保育事業は、現在未実施ですが、今後、実施を検討する園がありましたら、ご相談に応じます。

(子育て支援課)

次に「ファミサポ事業（病児・緊急対応強化事業）」についてです。

この事業は、子どもが急な病気となった場合などの保育に関する事業ですが、提供会員の確保や受け入れ施設等の整備などが大きな課題であり、本市では「ごく軽度で自宅保育可能なケースを除き」未実施となっております。

次に「ファミサポ事業（就学児）」についてです。

本年度は、実績値 700 人と見込んでおります。前年度に比べ実績が下がっていることから、自己評価を C としていますが、引き続き会員数を増やし、事業の充実を図れるよう努めます。

次に「ショートステイ事業」についてです。

この事業は、児童の養育が一時的に困難となった場合などに、宿泊を伴う養育を行うものです。提供体制の確保が見込めないため、本市では未実施となっています。

次に「地域子育て支援拠点事業」についてです。

この事業は、地域の身近な場所で、子育て中の親子の交流や育児相談などを実施するもので、子育て支援センター「のびりん」を、地域子育て支援拠点としています。本年度は、確保の内容の計画値 23,676 人に対し実績値は 24,203 人と見込んでおり、自己評価をAとしています。引き続き館内事業の充実や広報の活用を図り、利用の促進に努めます。

次に「利用者支援事業」についてです。

この事業は、保育園、幼稚園などの施設や地域の子育て支援事業の情報を集約し、利用にあたっての相談に応じたり、情報提供や助言をしたりするとともに、関係機関との連絡調整等を行うものです。引き続き事業の周知を図るとともに、子育てに関する情報集約・連携に努めます。

次に「乳児家庭全戸訪問事業」についてです。

この事業は、生後4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育てに関する情報提供や養育環境の把握等を行う事業です。乳児の数の推移に伴い、実績値は減少していますが、必要な訪問は実施できています。

次に「養育支援訪問事業」についてです。

この事業は、養育が特に必要な家庭に対し、その居宅を保健師や保育士などの資格を持った訪問員が訪問し、養育に関する指導や助言などを行うことにより、その家庭の適切な養育の実施を確保するものですが、本市では未実施となっています。

現在は母子保健における訪問事業において、母子の健康管理や育児相談を行っていますが、令和2年度には実施できるよう、検討を進めています。

最後に「妊婦健診」についてです。

この事業は、安全・安心な分娩や出産、妊婦の経済的負担の軽減のため、公費負担の受診票を交付し、医療機関等への受診を勧奨するものです。対象となる妊婦数の推移により実績値は減少していますが、受診券を交付した妊婦全員が受診しています。

(柴田会長)

地域子育て支援事業全般について、今の説明も含めて何か質問ありますか。

ファミサポの就学児はC判定になっていますが、平成27年度の実績を見ると633、28年921、29年602、30年738、令和元年700で平成28年度の実績が飛び抜けて上がっているが、次の年にまた下がっている。これは何か理由がありますか。

(子育て支援課)

ファミサポの事業については、生まれ年によって丙午などの年回りもありますし、一番大きな原因は、兄弟、双子、三つ子の多胎児が利用されることが多いと、そこで

ダブルカウントになるので、その方がヘビーユーザーである場合、小学校の送迎、塾の送迎、父母が帰ってくるまでの預かり等の利用もあるので、そういう方の利用、一番多いのが塾や習い事の送り迎えが兄弟、双子、三つ子が多かったと聞いています。数字については、633、921、602、738 と増減はありますが、その年によって、利用者がヘビーユーザーであるか多胎児のお子さんであるかが大きく影響しています。

(柴田会長)

それにしても計画値が 121 というのはどうしてですか。

(子育て支援課)

第 1 期計画の策定時にこの数値が出てしまったのでそのまま。中間等で見直すことが必要だったかなと今は思っています。

(柴田会長)

今回見直しと言えれば見直しですね。はい、分かりました。他にはよろしいですか。

(神谷委員)

ファミサポについてです。先日ママ達から使いにくいという要望があって、ファミサポについて詳しく聞きに伺いましたが、20 年くらい前からのそのままの制度でやっていて、もう少しオリジナリティを持ったやり方ができないかなと。あれば全国統一だから仕方ないと思いつつも、自宅や公共施設で見なければいけないとか色々と制約があると思いますが、そこをもう少し変革できないかなと思います。1 対 1 で子どもを見ますが、兄弟は許されるが、例えば 2 人のママが 3 人の子どもを見るとかそういうことが自宅で見るとそれはできないので、何か上手くやれないのかなと思います。利用者数が出ているが、説明にあったようにヘビーユーザーがいるので、その年の会員の委託数と受託数が出てくると増えているのか減っているのか実際に使っている現状の人数が分かると思うので、そこを備考欄にでも出してもらえると分かりやすいと思います。

(鈴木副会長)

子育て支援センターの所管になると思いますが、下から 4 番目の利用者支援事業がずっと 1 になっているが、ここに内容が関係機関との連携を行うとなっているが、実際に行っている 1 なのか、1 でいいのか、もっと欲しいのか、そこら辺がずっと 1 というのが分からないので教えてください。

それに関して利用者支援事業ではないが、湖西市全体にそうだと思うが、子どもの発達の気になる子や配慮の必要な子どもが非常に身近に感じられます。診断がつかない子でもお母さん、お父さんは子どもの育て方に迷っている方が沢山いる中で、豊橋や浜松に相談場所があって、湖西市には福祉関係の相談場所が全然ないと思うので、

そういったところがこの事業に少しでも発展されるといいなと思いました。発達支援センターが湖西市にはないし、病院や関係機関に繋がる連携の前のところの段階の支援が子ども達や今の子どもたちを育てている親にも支援が必要なのではないかと思います。そういった支援がもっと必要な世の中になっていくと思うのであったらいいかなと思います。

(柴田会長)

これは、利用者支援事業も子育て相談窓口で子育てコンシェルジュと言われている窓口で何でも相談受け付ける人を1人用意しているんですよね。

(子育て支援課)

利用者支援事業の単位が「個所」になっているので1か所となり、子育て支援センターに設けているということです。相談数ということではないので。

(柴田会長)

具体的に何でも相談に特定されている形ですか。

(子育て支援課)

そうです。

(神谷委員)

もう1点お願いします。

乳幼児の家庭の全戸訪問ですが、計画と実施の実績の数が違うのは、生まれた数が減っているためなのか、行く家が減っているのかがこれだと分かりにくいです。

(子育て支援課)

生まれた数が減っている事と、生後4か月までの訪問になりますが、最近、長期里帰りの妊婦さんが多くて、6か月、7か月になっても帰ってこないという人は、里帰り先の市町村に訪問を依頼してそちらで行ってもらい、情報をいただいています。

私たちが訪問した実績にはならないので、その分の誤差があります。対象の方は必ず訪問することとしているので、入院中で4か月までに行けない人と里帰りで湖西市に居ない人のどちらかです。

(神谷委員)

計画の時は見込めない数ですが、すごく怠っているような印象を受けてしまうのではないですか。

(子育て支援課)

実施率や訪問率という表現ができたらいいのかなと。妊婦検診のところもそうですが率で表せると評価していきやすい。

(柴田会長)

はい、有難うございました。本題と関係ないですが、長期里帰りの人が多いというのはどういうデータで捉えられるのですか。

(子育て支援課)

全員産まれると必ず電話をして、赤ちゃん訪問の日程を調整してします。予防接種は市内の医療機関で受けるのですが、市外で受ける場合には、湖西市と委託契約を結んで別の手続きをしないといけないので、そこで長期里帰りになるかどうか必ず把握するようにしているので、1件1件確認しています。

(柴田会長)

ざっとでいいので、出生に対してどれくらいいいそうですか。

(子育て支援課)

1か月に5人くらい居そうな感じがします。

(柴田会長)

何故そこを気にするかと言うと、以前にプレパパプレママに関わったことがありますが、里帰りが長いと、その後の夫婦関係が具合が悪くなるというデータがあって。

(子育て支援課)

プレパパプレママに長期里帰りが増えていて、あまり長いとパパがパパになかなかならないよとか、おばあちゃんの方が痒い所に手が届くので帰ってきた後少し大変で、1歳未満で離婚率が湖西市内で増えているという話しはこれから赤ちゃんを産むパパママに現実には伝えています。

(柴田会長)

そこは是非伝えてください。接触が極端に減るので、お父さんがお父さんになりきらずにいつてしまうケースを私もたくさん見聞きします。

(事務局)

会議の途中ですが、一度休憩をしたいと思います。

会議委員から市長へ第2期計画の答申をしていただきます。

それでは市長から会議委員の皆さんへご挨拶いたします。

(湖西市長 影山 剛士)

皆さん、改めましてこんにちは。湖西市長の影山剛士です。

今答申をいただきまして、約2年活発なご議論を重ねていただき本当にありがとうございました。改めてお礼申し上げます。今、答申の中であった、スローガンである『一人ひとりの笑顔があふれる KOSAI』の実現に向けて我々もしっかりと頑張っていきたいし、それが実現するように引き続きお力をお貸しいただきたいと思います。今回湖西市として、これから取り組んでいく今の現状課題からも、未来に渡って将来に渡って持続可能な街づくりをしていくことは、今の子どもたちが将来大人になった時にこの街に住んでいたい、住み続けたい、この街に住んでいてよかったと思えるような街づくりが何よりも重要だと思っていますので、是非持続可能な発展のため取り組んでいきたいと思っています。今3本柱でやっていて、持続可能な発展の第1に子育て教育支援の充実がまずあります。産業の振興や観光シティープロモーションも同時に進めていきますが、何よりも将来に渡って子どもたちがこの街に住んでもらう、そして働いてもらう昼夜間の人口、昼と夜に働く人口の差がこの街には1万人あります。今は人口が6万人ですが昼間には7万人の方がここ湖西に浜松や豊橋から働きに来ていますので、1割でも2割でも昼夜間の人口の差を解消してこの街が未来に渡って笑顔があふれるような活気ある街づくりを継続していきたいと思っていますので、是非また今回の答申はもちろん実現に向けて努力していきますし、この答申に限らず様々な場面において皆さまからのお力を頂戴できればと思います。

重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。市長は、引続き公務がありますので、退席させていただきます。

(柴田会長)

それでは、会議を再開します。

続いて任意記載項目についてです。こちらは法律で記載が義務付けられているものではないが、今後の市の指針を掲載したものです。こちらの進捗状況及び今後の見通しについての資料が事前に送付されていると思いますが、何かご質問ありますか。

先程、必須項目で数値目標が出ていたところは、国からどの自治体も同じように出せと言われているので、なかなか市の独自性が出しづらいところですが、任意事業のところは任意なので湖西市の特徴として、わたしたちはこんな事やりますと立てるところです。何かご意見があればお願いします。

市として何か特徴づけたい、一生懸命やっているようなPRポイントがありますか。

(子育て支援課)

市長のお話しにもありました、市が賑わいを持てば子育てに関わる人も増えるとい

うことで任意項目の数が多いですが、全てを前向きに進めることで、子育ての充実に繋げていきたいと思います。

(柴田会長)

先程、里帰りのところでも触れましたが、湖西市でやっているプレパパプレママの産まれる前の両親学級ですが、かなり充実してきていると思います。特に産前から両親と一緒に共同で子育てをする意識を持たないと後が大変だよと言っていたいて、この間は浜松市の保健師も見学させていただいたので、今後とも是非やっていただけるとありがたいと思います。

それでは議題2「第1期計画の進捗状況について」審議を終了します。

続いて裁決に入ります。市から提出のあった実績、見込数値等について異議はありませんか。

異議なしでよろしいですか。

では、議題2について本会議で承認をします。市においては、引き続き計画に基づいて事業を進捗していただきますようお願いします。

続いて議題3「幼保連携型認定こども園の利用定員の設定について」説明をお願いします。

(幼児教育課)

子ども・子育て支援法(第31条第2項、第77条第1項第1号)では、幼稚園、保育園、こども園等の利用定員を定める場合、子ども・子育て会議の意見を聴くこととされているため、議題にさせていただきました。

認定こども園の目的は、小学校就学前の子どもに幼児教育と保育を一体提供すること、地域における子育て支援を行うこと、の2点で、認定こども園として必ず備えなければならない機能とされています。

資料「幼保連携型認定こども園 真愛三ツ谷こども園の概要について」をご覧ください。

運営開始予定年月日は令和2年4月1日、所在地は新居町中之郷になります。

利用定員設定について、保育園やこども園等の利用定員を定める場合は、歳児別に子ども1人当たりの面積基準が設けられておりまして、2歳以上の場合は1人当たり1.98㎡、2歳未満の場合は1人当たり3.3㎡の面積が必要となります。各保育室の有効床面積を、歳児別基準面積で除した数値を目安として、施設の面積、保育士の配置、園の適正な運営等、さまざまな検討を重ねて定員を設定しておりまして、幼稚園に当たる1号認定は10人、保育園に当たる2号認定・3号認定は90人で、全体で100人の認定こども園になります。

開園時間及び休園日は、1号は幼稚園と、2・3号は保育園と同じものになります。

資料「幼保連携型認定こども園 湖西市立新居幼稚園の概要について」をご覧ください。

運営開始予定年月日は令和 2 年 4 月 1 日、所在地は現在の新居幼稚園です。

利用定員は、幼稚園に当たる 1 号認定は 156 人、保育園に当たる 2 号認定・3 号認定は 119 人で、全体で 275 人の認定こども園になります。

ちなみに、令和 2 年 1 月 1 日現在の園児数（幼稚園）は 137 人です。

開園時間等につきましては、お示ししたとおりです。

（柴田会長）

それでは、利用定員の設定について何かご質問ご質疑ありましたらどうぞ。

（柴田会長）

保育士不足の中、100 人定員の認定こども園ができますが、100 人定員だと保育士が何人必要で、確保は確実に大丈夫なのでしょうか。

（幼児教育課）

認定こども園の保育教諭の配置について説明します。

常勤の職員については、通常 100 人定員の場合だと、12～13 人がまず最低基準です。歳児によって決まってくるので今は目安になります。そこをベースにしながら預かり時間のローテーション等あるので、実質的には 20 人近い職員が必要になります。色々な事業の取組みをすると更に職員が必要になります。そこに自園で調理をするとなると給食員、栄養士も要るし、かなりの人数が必要になります。現在、真愛三ツ谷こども園では、保育教諭の配置はできる体制でいますので、4 月 1 日運営開始に向けては問題ありません。市立新居幼稚園に関しても、来年度新居保育園、内山保育園の規模の縮小に伴い、保育士の配置の見直しを全体的に行います。新居幼稚園に集約する予定でいるので、4 月 1 日の運営開始に向けても保育教諭の配置はできる体制でいます。

現状色々話しを聞くと、保育士の確保がどの園も大変なことになっています。無償化の影響で厳しくなっていると聞いているので、市からお手伝いできる場所があればと思いますが、なかなか直接的なお手伝いできていないというのが実情です。国の方で保育士の処遇改善として給与を増額するという取組みをしているので、そういったものも紹介しながら確保しています。

（彦坂委員）

新居幼稚園に 2 倍も引き受けるスペースはあるのでしょうか。

（幼児教育課）

新居幼稚園ですが、もともと 310 人の幼稚園定員でしたので大丈夫です。

（柴田会長）

全国的に保育教諭が足りないの、あちこちの自治体で自治体毎の補助を出して支

援するとか、再就職のための免許は持っているが在宅になっている人を引っ張り出すためのセミナー等行政でやっているところもありますが、何かありますか。

(幼児教育課)

湖西市において、市独自にやっているものは特にありません。民間園で保育教諭を雇う際の、例えばアパート代の補助等も実施していない状況で、通常の国、県の補助金を全て使っているというわけでもありません。そういったところも踏まえて今後財政部門等と相談しながらお手伝いできる部分があれば補助等設けることができるのではないかと思います。現時点での市独自の制度はないので、法人の努力で何とかやってもらっている状況です。

(柴田会長)

たまたま私は大学にいて、幼稚園教諭、保育士養成課程もあるので、そこで去年無かったけど今年あったこととして、行政側の2次募集や3次募集があって、年が明けてから東の方の市で採用があったり、12月になって行政の採用試験やると連絡があって、本当に足りないんだなと感じています。

(幼児教育課)

実は湖西市でも2年前に2次募集を1月に実施したことがあります。1次募集をした時に内定をしていたが他の市に行ってしまったとか、1次募集後に退職の申し出があったとか不測の事態をもって、どうしても2次募集をしないといけなかったことがあります。今年については今のところそういうことはありません。湖西市に限ったことかどうか分かりませんが、正規の新卒の方は、公立を志望される方もいるので、今のところ募集に対して応募は少ないという状況にはなっていません。

非常勤も随時募集はしていますが、保育園遅番・早番という時間的な制限があってできないという人がいるので、非常勤の募集については、ほぼ無いです。

(柴田会長)

それでは議案3「認定こども園の利用定員について」審議を終了します。

続いて裁決に入ります。市から提案のあった幼保連携型認定こども園の利用定員の設定について異議はありませんか。

よろしいでしょうか。異議ないようなので、議題3については本会議で承認したことにします。

続いて議題4「委員の任期について」事務局から説明をお願いします。

(事務局)

子ども・子育て会議における委員の任期は3年となっており、今月末までとなっています。今回は最後の会議となる委員もいらっしゃるかと思います。様々なご検討

やご意見をいただき、ありがとうございました。引き続き委員を務めてくださる予定の方につきましては、今後ともよろしくお願い申し上げますとともに、令和2年度の会議の予定ですが、事務局としては8月と1月ごろの年2回開催を予定しています。近くなりましたら、日程調整等、ご連絡させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

(柴田会長)

続いて議題5「その他」事務局から連絡等ありましたらお願いします。

(事務局)

以前会議の中で意見があった、会長の挨拶にもありました「市役所職員の育休の取得率の公表について」です。資料5-1をご覧ください。

12月15日発行で全戸配布しています広報こさいです。市の人事行政の運営などの状況について、市役所職員の人事行政の実態を、市民の皆さんに情報公開するため、毎年公表しています。資料の一番下にある育児休業の取得状況については、今回から掲載されることになりました。会議において話題になっていた男性の育休取得については29年度まではいみせんでしたが、平成30年度は1人となりました。参考までに今年度現在までに1人となっています。

今後も関係各課と連携をして、育休取得の啓発にも務めていきたいと思います。

(柴田会長)

ご提案を取り入れていただいた形でありありがとうございます。

サンキュー（産休）育休パパプロジェクトで県を取材するテレビでやっていましたが、県は17%くらい取得していました。また、ご検討いただければと思います。

これですべての議題について、審議を終了しました。

会議の円滑な進行にご協力をいただきましてありがとうございました。

以上を持ちまして、令和元年度第3回湖西市子ども・子育て会議を閉会します。